

1 事業の背景

- 東京2020大会の競技会場の都立恒久施設では、アクセシビリティワークショップにより当事者点検によるバリアフリー整備を実施
- ユニバーサルデザインのまちづくり緊急推進事業、地域福祉推進包括補助事業で、住民点検による施設のバリアフリー改修を支援
- バリアフリー基本構想※作成に際して、施設を利用する高齢者・障害者等の意見を反映する措置を講じることが必要とされている。

※バリアフリー基本構想…区市町村において作成するバリアフリー整備の基本方針のこと。バリアフリー法において作成が努力義務

(第13期福祉のまちづくり推進協議会意見具申)

- 利用者の視点に立った整備を進めるため、当事者参画の更なる促進が必要である
- 更なる促進に当たっては、事業者側・利用者側双方の視点から当事者参画を行うメリットを広く共有することが重要

- 過去の好事例を検証し、取組を行うために必要なポイント（目的・効果・手法など）をまとめた
当事者参画によるバリアフリー整備に係るハンドブックを作成



2 概要

【タイトル】 当事者参画で進めるユニバーサルデザインの施設づくりハンドブック - より使いやすい公共施設にするために -

【趣 旨】 「当事者参画」に初めて取り組む担当者も「これならできそう」と思ってもらえるよう、当事者参画の進め方を例示するとともに、実際の事例も紹介したハンドブックを作成し、多くの施設での自発的な取組を促進

【構 成】 (第1章) 当事者参画の進め方

当事者参画の効果、対象事業の選定、当事者参画等の方法（まち歩きによる施設等の点検、ワークショップ等）、参加者の人選、事後検証とスパイラルアップ、Q & A 等

(第2章) 当事者参画による整備事例 ※ 9事例：6区 2市 1町

参画の内容、参加者の意見に対する具体的な対応、苦労した点・工夫したこと、今後の課題



URL ➤ https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kiban/machizukuri/toujisya_handbook.html